

(第3種郵便物認可)

ITI世界会議で演出

八戸の 観客らから高い評価 服部さん

舞台芸術団体・ITI(国際演劇協会)の第二十四回世界会議に演出家として参加していた八戸市の服部明子さん(三毛)とモレキュラー・シアター所属の大きな成果をみやげに帰国した。

ITIは七十数カ国が加盟する世界最大の舞台芸術団体。二十四回大会は五月二十六日から六月二日までトルコのイスタンブールで開かれていた。

同大会での呼び物は各国から招待された演出家が、百人近い各国の俳優を「即興的」に振り付けし、舞台演劇を行うという競演。日本からは同シアター(略称・モルシア

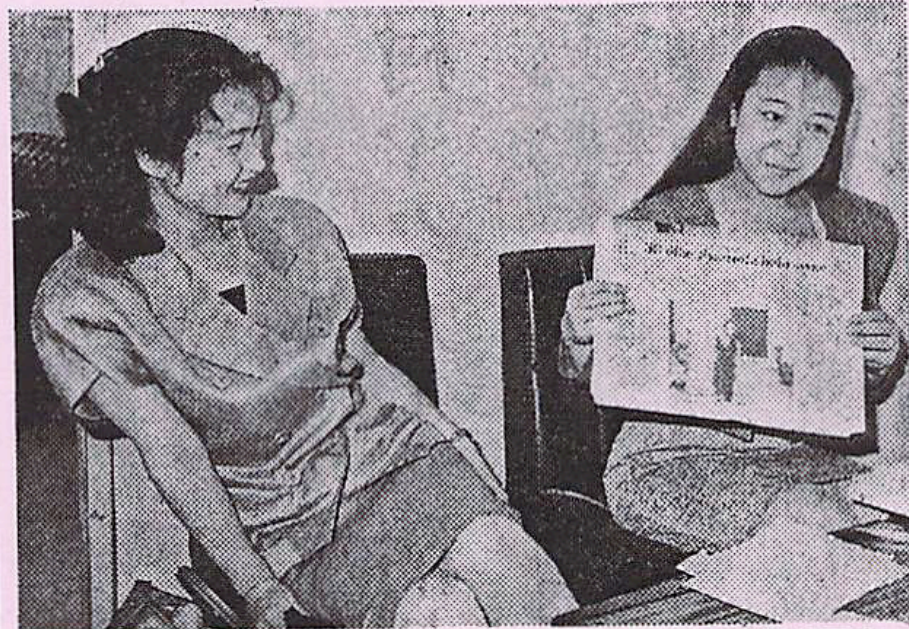


ユーリー・ルミステ氏

ター)の豊島重之前代表と服部さんの二人が招かれた。モルシアターはこれまでカフカ作品を手がけ、「フェリーツエへの手紙」より「Fパラサイト」を海外公演する実績と演劇レベルが評価されての招待。

招待。

五月三十一日、アタチュルク国立文化センターで行われた日本チームのパフォーマンス



「イスタンブールの新聞に日本ワークショップの演劇が写真入りで大きく報じられた」と説明する服部さん(右)

スのテーマは「The Wall(壁)」。フランス、スウェーデン、ベルギー、イギリスなどから参加した十六人の俳優を使った演出、発表である。

パネルを壁に俳優たちがじよつこ(漏斗)をかぶつてのパフォーマンス。特に、演出はこの地方に伝わる盆踊り「にやとやら」「えんぶり」でとられる独特の足のすりやマテップを意識して採り入れた。

この演出に観客はじめ評論家や芸術家、演じた俳優たちからも高い評価と驚きの声があがったという。

今回のみわけはそれだけではない。日本ワークショップのアクターの一人だったソ連の若手俳優・演出家ユーリー・ルミステ氏の八戸招来が決まったことだ。同氏は、七月二十九日、八戸市で開かれる同シアターの帰国報告公演でモルシアターの仲間とともに競演する。

たい、モレキュラー代表 高沢利雄